

編集後記

最近首都圏で、精神科医は薬物中毒を治療するのではなく薬の売人になっている、背景に精神科クリニックの開業ラッシュがあるという番組が放送されたらしい。リタリンに始まり、今から問題になりそうなベタナミン、さらに中毒性のある薬としてデパス、セルシン、ソラナックスなどが一覧表で示され、これらの薬は十把一絡げで危険であるかのような印象を与える内容であったということである。この種のメディア姿勢は、一般の注意を喚起し患者が主治医との対話の中で認識を深める、という方向に働くのであれば特に目くじらを立てるようなものではない。しかしあたかも病院やクリニックは押しなべて悪いという印象を与え、医療不信と医師攻撃を助長するのであれば問題が多い。さらに、治療中の患者が不安になって服薬を中止し症状の悪化を来すようなことがあれば大問題である。

精神保健関連のメディア報道の悪影響については、環太平洋精神科医会のニュースレターに台湾の興味深い調査研究が掲載された。MJ Nee という 59 歳の有名なテレビ俳優が 2005 年 4 月に首吊自殺をしたことが大々的に報道されたが、報道後にうつ病患者への面接を通しその影響が調査された。結果、最も影響を受けたのは重度のうつ状態の患者で、報道後の自殺企図を含む問題行動の発生が調整オッズ比で 7.81 倍多かった。また報道前に自殺企図があった患者では調整ハザード比が 11.91 であった。報道の悪影響は最重度の患者に最も深刻に表れるという結果であった。

しかし一方で、向精神薬を処方する医師は悪口を言われないような準備が必要である。症状、病態、診断に見合った適切な投与薬剤の選択、用量の決定、併用薬の選択という一連の行為に対して、患者や社会への説明責任がある。しかも薬物に関する基本的な知識はどんどん蓄積され、その理解にはより深い専門的素養が必要となっている。本誌など専門誌の果たす役割は大きい。今回の「展望」欄「薬理遺伝と相互作用の知識をどう使うか」は、その意味で時宜にかなったものである。最近の遺伝研究の知見が随所に紹介されながら、実際の注意点がわかりやすく書かれている。筆者、近藤先生が言われるように、代表的な相互作用の例とそれらに関する基本的知識を持ち、リスクを承知のうえで併用し、予想される問題に対処することが精神科医の専門性を高めていくと思われる。(S.I)

■ 編集委員

飯森眞喜雄

井上 新平

小島 卓也

小阪 憲司

松本 英夫

松岡 洋夫

三國 雅彦

山崎 晃資

(ABC 順)

精神医学 (第 50 巻 第 5 号)

2008 年 5 月 15 日号 (毎月 1 回 15 日発行)

1 部定価 2,625 円 (本体 2,500 円 + 税 5 %)

2008 年年ぎめ予約購読料 30,600 円 (送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03) 3817-5659・5660

振替口座 00170-9-96693

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原優

☎ 113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 編集室直通 (03) 3817-5711 (担当) 三由・山崎

Fax (03) 3815-7802

E-mail seishinigaku@igaku-shoin.co.jp

URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/seishin/>

印刷所 三美印刷(株) 電話 (03) 3803-3131

広告申込 (株)丹水社 電話 (03) 3561-1323

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は(株)医学書院が保有します。

・ JCLS (株)日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム (電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199) の許諾を得てください。

・ 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。